



わいわい子ども食堂通信

あじまわいわい食堂記録更新中！



7月、あじまわいわい食堂はこれまでの最高の利用者数
213人サポーター38人
合計250人の大記録になりました。そのうち**小学生62人**、**高齢者65人**でした。高齢者は毎月60人超えます。

急に暑くなってきた土曜日のランチタイム。受付はあふれんばかり、子どもたちは食事提供の順番が来るまで、体育室で大はしゃぎ。おもちゃコーナーも賑わい、学生さんが見守りしてくださいました。

広い体育室なので、ボール遊びが人気です。

この日はお米を10升炊き、カレーを大鍋で4杯作り、全員食えることができました。

大きなスイカとキュウイフルーツもおいしくいただきました。



めいほくわいわい食堂には名古屋大学医学部の研修にアメリカから見えたYellaさんと学部生の2名が見学に見えました。

Yellaさんは両親が中国系ということで中国語が流暢で、早速、医療生協の市川さんが、中国語で挨拶を交わして、小さな国際交流の場になりました。(市川さんは中国語ペラペラです。)



めいほく
わいわい
食堂
の様子

ちょっとい話

めいほくわいわい食堂の利用者者さんからメッセージが届きました。

ありがとう！！ 今後も元気
カレーがうまい！！ 10周年 おめでとう。





子ども食堂 10周年記念講演会



子ども食堂10周年講演会 84人の参加

2026年6月27日

今池ガスビルダイヤモンドルームにて

前日か台風襲来の警戒情報が流され、開催が危ぶまれましたが、藤原先生が前日に名古屋に来てくださり、台風も少しそれたおかげで無事に開会できました。

当日、裏方でお手伝いしていただいた中京大学現代社会学部の成ゼミ生による講演まとめと感想録です。



藤原辰史先生の講演：食は単なる生命線維持の手段ではなく人と人、人と地域・自然と社会とを結び付けつける重要な営みとして考え直すことの大切さが示され、特に印象に残ったのは「縁食」という考え方である。

子ども食堂では参加者全員が交流する必要はなく、静かに食事をする人も含め、多様なかかわり方を認める点に価値がある。また、食は市場によって商品化される一方で政治や権力とも深く関係していることが説明された。

さらに、給食や子ども食堂は単なる食事の提供ではなく、地域の自然や生産者とのつながりを学ぶ場でもある。

現代社会では人間関係の希薄化や食の商品化がすすんでいるが、縁食のような場は、弱いつながりを積みかさねながら地域社会の再構築する可能性がある。

食を家族に閉じ込めず、市場と政治権力から解放する運動を。 中京大 3年生 内藤

講演では様々な視点からの食について学ぶことができました。

食に権力があるという話や武器になるという話がとてもおもしろいと思いました。

また、子ども食堂を社会運動につなげるという話が、これからの子ども食堂としての新しい時代を感じました。

中京大 3年生 阿利

食堂開催日程

「上飯田」

めいほくわいわい食堂
みなみまち
福祉センター一階

8月5日(水)

17時30分～19時

「あじま」

あじまわいわい食堂
楠地区会館二階

8月8日(土)

11時30分～13時

「上飯田」

フードステーション

8月9日は

おやすみします

